

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~

~play list~

1. Mambo No. 5 / Perez Prado and his Orchestra / Tumbao TCD-013 / 1949?
2. Mambo No. 5 / Perez Prado and his Orchestra / Tumbao TCD-006 / 1949?
3. Mambo Inn / Machito and his Afro-Cuban Orchestra / SMD MHCP796 / 1952
4. Si Si No No / Machito and his Afro-Cuban Orchestra / SMD MHCP796 / 1952
5. The Anything Can Happen Mambo / Abbe Lane & Xavier Cugat / SMD MHCP797 / 1954
6. JATP Mambo / Chico O'farrill / Universal UICY 6274/5 / 1951
7. Profecia / Cuarteto D'Aida con Chico O'farrill / BMG 3393-2-RL
8. Mambo Bacan / Sophia Loren / BMG Funhouse BVCM-34037 / 1954
9. Mambo Jumbo / Noro Morales / SMD MHCP1098 / 1950
10. Perfume de Gardenias / Noro Morales / BMG 3357-2-RL / 1955
11. Mambo Sensacion / Jose Curbelo Quintet / King KICP1133 / 1954?
12. Plena en Ponce / Cesar Concepcion 1948 Volume 1/ Harlequin HQCD148 / 1948
13. Que Linda Eres / Cesar Concepcion 1948 Volume 1/ Harlequin HQCD148 / 1948
14. Picadillo / Tito Puente and his Orchestra / BMG Japan BVCJ-37487/88 / 1951
15. Cuando Suenan los Tambores / Tito Puente and his Orchestra / BMG 3226-2-RL / 1951
16. Sway / Rosemary Clooney and Perez Prado / BMG Japan BVCJ-37569 / 1959
17. Guarare / Tito Rodriguez and the Mambo Devils / King KICP1133 / 1948?
18. This is Mambo/ Tito Rodriguez and his Orchestra / BMG Funhouse BVCJ-37445 / 1956c

by YAMAMOTO Takahiro on July 27, 2008

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ～MAMBO before ChaChaCha～



Copyright: マンボラマTokyo

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ～MAMBO before ChaChaCha～



1. Mambo No. 5



1970年代の土曜夜、
"ちょっとだけヨ"で
お茶の間でも有名に

2曲目の「No. 5」がオリジ
ナルらしい。トレードマー
クのブラス・リフはなくピ
アノが全編を彩る

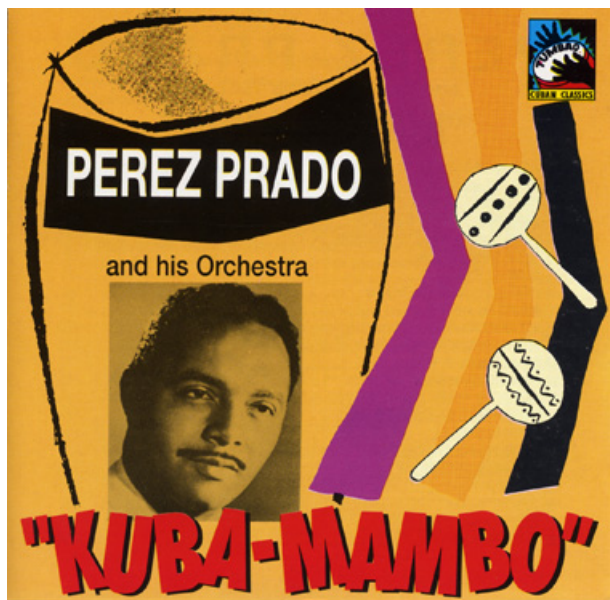
ダマソ・ペレス・プラード Damaso Perez Prado

世界に名前を轟かすマンボ王。バンド・リーダー／作編曲家／ピアニスト。1916年マタンサス生まれで、音楽学校の同年代には1960年代のキューバ音楽界の首領ラファエル・ソマビージャがいた。1942年にハバナに進出し、いくつかのオケを経て1943年ごろにオルケスタ・カシーノ・デ・ラ・プラージャに参加し、ジャズのイディオムをキューバン・リズムおよびメロディと結びつけた、と歴史上で語られている。1948年にメキシコへツアーし、いくつかのオケと競演、翌年にはメキシコを拠点として活動することを決心しオーケストラを結成した。当初はニューヨークにもいたらしいが、メキシコRCAのディレクター：マリアーノ・リベラ・コンデの後ろ盾もあり、マリアッチの高血圧ブラスを利用した強烈なリフの「ケ・リコ・エル・マンボ」(＝マンボ・ジャンボ)の400万枚というヒットで、マンボを世に広めてスターとなった。代表的ヒットに「マンボNo. 5」「マンボNo. 8」「セレス・ローサ」「ラ・マカレーナ」「パトリシア」など、マンボ・カエン～バティリ～スビー、ロカンボ、デンゲなどリズムを次々と発表した。また、コンフント・マタモロスでメキシコをツアーしていたベニ・モレーを横取りし、「マンボ」がキューバへ逆輸入するきっかけにもなった。

来日多数、現在も名を冠したオーケストラが活動を続けている。メキシコ1989年メキシコ・シティで亡くなる。

これら2枚のCDはスペインtumbaoのラインアップで、初期の尖ったサウンドがまとまっている。そのほかにはベニ・モレーとのコラボ盤も一枚のCDになっているのでオススメ。

BMG Japanが紙ジャケ・シリーズでリリースした2枚は、スビー期のゆったりしたサウンド。



2. Mambo No. 5



Copyright: マンボラマTokyo

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~



3. Mambo Inn, 4. Si Si No No



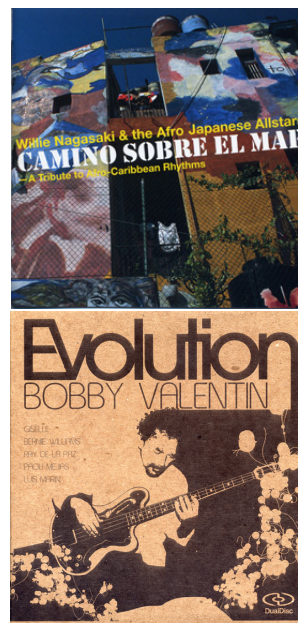
左の2枚は、LPでのリリース。マチートのコロンビア集はtumbao盤が出るまで聴く機会が少なかったが、コロンビアは1950年代半ばにはティコヘライセンスを寄与していた。右の2枚は結果的にコロンビア録音を初単独LP、右列のコンピは”ママが教えてくれなかった歌”



マチート Machito

NYラテンの方向性を決定付けたバンド・リーダー／ヴォーカリスト／マラカス奏者／作曲家。本名フランク・グリージョ。1912年タンパ生まれ、1984年ロンドンにて没。幼少のうちに一家でハバナに移住し育った。1937年にニューヨークへわたり、すでにドン・アスピアスーやチック・ウェブなどと実績を残していたクラリネット／トランペット／アルト・サクソ／作曲家マリオ・バウサーとアフロ・キューバンズを結成した。太平洋戦争の招聘などでバンドの存続が危ぶまれたが、実妹グラシエーラやレネ・エルナンデスらの加入で40年代中期を乗り切った。初期のルンバ・テイスト濃いサウンドから、ハーレムのヴォイスिंगとラテン・ビートを融合させたビッグ・バンドでNYマンボを完成させた。

マチート楽団のいいアルバムは、1948～49年マーキュリー（パブロで再発）、52～53年のシーコ、57年『Kenya』、一連のティコ、GNPなど。また、1970年代にバウサーがマチート楽団を離れ、その後のアルバムを比較すれば、サウンドの要はバウサーだったことが、よく解るはずだ。



ジセーレ？ あ～んなやせっぽちがいいのお？



cf: TICO SLP 1107

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~



～自慢の妻～
ミュージカル女優アビ・レインのクガート楽団加入は1950年、52年には4番目の奥さんとなる。50年代を通してクガート楽団の華であり、単身としての活動も盛んだった。1932年？NY生まれ

5. The Anything Can Happen - Mambo



ザビア・グガート／ハビエル・クガー Xavier Cugat

1900年1月1日、スペインのヘローナ生まれ。人呼んで”ルンバの王様”。愛称はクーギー。幼少のころに両親がハバナへ移住し、プレゼントされたヴァイオリンを手にして音楽に目覚める。9歳でモイセス・シモンズらとクアルテートを結成し、11歳で国立劇場オケの第一ヴァイオリンを勤めた。クラシックの演奏家として、1915年にUSAに渡るが、1925年にポピュラーに転ずる。紆余曲折の末、1939年に超高級ホテル：ウォルドルフ・アストリアのハコバンとなり、40年代初頭から安定した楽団運営を始める。「マイ・ショール」がオープニングだった。映画出演(『水着の女王』『愛情物語』『晴れて今宵は』など)、画家としての活動などタレント性豊かな才人。駆け出しのマチートやミゲリート・バルデース、ティト・ロドリゲス、ダイナ・ショアなどを登用したフィクサーでもある。ヒット曲は「マイ・ショール」「マイアミ・ビーチ・ルンバ」など。エド・サリヴァン・ショウにも出演した。来日多数、1990年にバルセローナで没した。

ハードコアな視点からUSラテン・ミュージックを考えると、クーギーやペレス・プラードは、薄口でコマースリズムに迎合した一般向け音楽である。だが…

クガートとミゲリート・バルデースが出演している

Copyright: マンボラマTokyo

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~



6. JATP Mambo



Chico's Afro-Cuban series:



clef MG C-131



clef MG C-505



y norgran MG N-9

チコ・オフアリル Chico O' Farrill

アルトゥーロ・チコ・オフアリルは、類まれな音楽構成力によってアフロ・キューバンの芸術的追求を行った作編曲家／バンド・リーダー／トランペット奏者である。苗字から察せられるようにアイルランド(とドイツ)の血を引き、1921年にハバナで生まれた。厳格な父親の元で法律家になるべく勉学に勤しんだが、音楽も趣味として続けるうちに上達、1940年には法律学校に通う傍らカバレ・トロピカールのトランペッターに、5年後にはサン・スーシのハコバンの一員となる。編曲を始めたのがいつなのか不明だが、1948年にニューヨークへいき、ビ・バップを目の当たり、ディジー・ガレスピーらと交流を持つ。翌年にはベニー・グッドマンに編曲を提供するようになり、さらにマチート楽団の「ゴーン・シティ」などマーキュリー・セッションでラテンのアレンジも開始した。基本的にはジャズのアレンジャーとしての活動がメインだが、ラテン・ビッグ・バンドのアレンジャとしての活動も多く、厚みのあるホーン・アレンジなどはマチート～バウサーの路線と良くマッチしていた。2001年ニューヨークにて没。

同名の息子アルトゥーロもピアニスト／作編曲／バンドリーダーとして活躍中！



7. Profecia



Divas de Cuba



Omara



Moraima



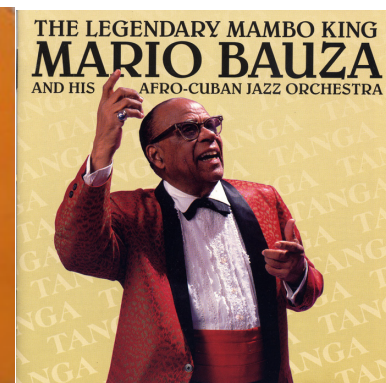
Elena

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~

What's TANGA?



+



1948-49 recordings



{



12インチ版『アフロ・キューバン・ジャズ』は同名の10インチLPと同じジャケットで、B面に件の10インチ版を全曲収録していますが、A面はチャーリー・パーカーらの演奏です。一方、マチート楽団のクレーフ音源としては『マチート・ジャズ』があり、こちらはアフロ・キューバン・ジャズの歴史的名曲の誉れ高い「タンガー」のオリジナルを収録しています。この10インチLPの2in1でアフロ・キューバン・ジャズ決定的アルバムとなります。

第2次世界大戦が終わり、レコーディング・ストライキと徴兵から復帰したメンバーが再集結したマチート楽団の復帰後の最初のレコーディングがマーキュリーにあります。1948&49年当時は2枚の10インチLP(8曲×2)がありました(シングルは不明)が、1978年に全24曲がパブロから『Mucho Macho』としてリリースされ、日本盤(CDもあり)にもなっています。定番中の定番アイテムです。

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~



9. Mambo Jumbo ~original cover~

ノロ・モラーレス Noro Morales

1911年1月4日、プエルタ・デ・ティエラ生まれのバンドリーダー／ピアニスト／作編曲家。世代的には、マチートやアルセニオ・ロドリゲスとほぼ同じ。音楽一家に生まれ、24年に一家でベネズエラの首都カラカスに移住し、30年に父が死去するまで大統領官邸オーケストラとして活動した。一度プエルトリコに帰りオーケストラを解散、フリーランスのミュージシャンとして活動するが、35年にNYに拠点を移し、37年に兄弟を中心としたバンドを結成、エル・モロッコやチャイナ・ドールなどのクラブに出演した。このころ、近所にラファエル・エルナンデスが住んでおり、彼のロマンティック曲をレパートリーに組み入れ始めたと言われている。「ビン・バン・ブン」(クガート楽団w/マチート)のヒットが41年、「セレナータ・リトミカ」「オジェ・ネグラ」の自作自演ヒットが42年、ダンス・コンテストのオーケストラを担当するなど、NYラテン界で徐々に地位を築きあげていった。しばらくは安定した活動を行ったが、糖尿病が悪化(デビュー当初から280ポンド! あった)した61年にプエルトリコへ帰り、64年に世を去った。

音楽スタイルの基本はピアノ+リズム(ジャズで言うピアノトリオで、パーカッションが複数人いる)で、40年代も半ば過ぎにマチート型マンボを取り入れたビッグ・バンドも運営するようになった。音楽スタイルはクラシックを基調とした技術とアフロ・キューバンの融合だが、ラファエル・エルナンデスの美しいメロディを美しく演奏する美的センスは、この時代のノロ、エルナンデス、プエルトリコの心であると思う。

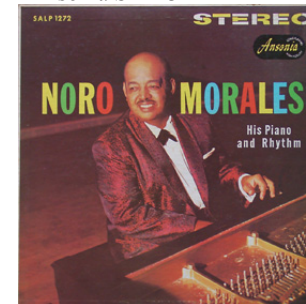
10. Perfume de Gardenias ~original cover~ Copyright: マンボラマTokyo



Vogue LDS108=Secco SLP1



Ansonia SLP1341



Ansonia SLP1272



Rainbow LP703

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~



Volume 1

1948

セサル・コンセプシオン
Cesar Concepcion



1909年7月28日、カジェイCayey生まれのバンドリーダー／トランペッター／作編曲家。幼少から音楽教育を受け、ホテルのハコバンを中心に活動していたアウグスト・ロドリゲス楽団でプロとしてデビュー、ラファエル・ムーニョスと席を同じくする。1933年にNYに活動の拠点を移し、エディ・ルバロンLeBarron楽団の一員としてウォールドルフ・アストリア・ホテルに出演、5年間を過ごす。1938年から1941年は、ペドロ・フローレスが設立したカルテートに参加した。メンバーには実に、ダニエル・サントス、セサルがおり、アレンジはラモン・ウセーラだった。ダニエルの初期、美声時代の貴重なレコーディングでもある。

1942年、セサルはプエルトリコへ帰りアルマンド・カストロ楽団に参加するが、1947年にいよいよ自己のオーケストラを旗揚げする。プレイヤーとしても優れた腕前、作編曲の才能を持ったセサルは、プレーナとマンボの融合を試みた。マチート楽団の”ソンとジャズ”がNYマンボの骨格だとすれば、ノロはそのフォーマットにプエルトリコのメロディをのせ、セサルはソンをプレーナに置き換えたと位置づけられる。そのサウンドはプエルトリコらしさとして評判を呼び、ジョー・バジェの濃厚な歌声もまたポリンケンな哀愁で人気を獲得、NYでもしばしば演奏した。1974年に没。



Secco SLP17



Carin'o DBM1-5807

12. Plena en Ponce, 13. Que Linda Eres



Ansonia ALP1304



Tropical TRLP5062



Secco SCLP9077



velvet LPVS1433



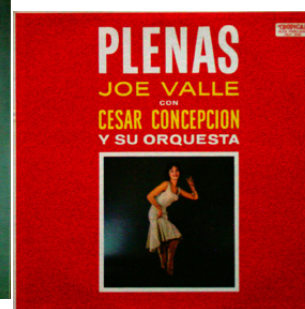
Alegre LPA8180



Copyright: マンボラマTokyo



Tropical TRLP5048



Tropical TRLP5025

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~



14. Picadillo, 15. Cuando Suenan los Tambores

テイト・プエンテ Tito Puente

単なるダンスの伴奏ではなく、打楽器アンサンブルやフラット5thの採用など、魅せるプログレッシヴ音楽としてのNYラテンを推進したバンド・リーダー／ティンバーレス奏者／ヴィブラフォン奏者／作編曲家。本名アーネスト・アンソニー・プエンテ・ジュニア。1923年NY生まれ。1939年に、ホセー・クルベーロのUSツアーに参加したのがプロとしてのデビュー。40年代初頭にはマチート楽団、ノロ・モラーレス楽団に参加。海軍兵役後は、クルベーロ楽団、プピ・カンポ楽団で演奏だけでなく編曲も行う。プロモーター：フェデリーコ・パガーニに見込まれて1949年に独立した。2000年5月31日NYにて没。

パレイディウムで覇を競ったマチート楽団やテイト・ロドリゲス楽団との違いは、自身が優れた器楽奏者であり、かつ編曲もできたために、次々と新しい試み（パーカッション・アンサンブルのみのレコード制作やヴィブラフォンの採用など）で50年代NYラテンを革新させた。ジャズ・フィールドとの交流も盛んだった。60年代はティコの重鎮として歌伴を含む活動多数。サルサ最高潮の70年代中盤は不調だったが、80年代以降に改めてプロフェッショナルな音楽性で名実共にキングの何ふさわしい活動を展開した。来日多数。

ピカディージェョ：a1 LPM3164, a2 LPM1354収録

b1~3 何度も録音された。最初から最後まで
c1, c2 リット一本で紹介されたアルバムにカバーあり。

クアンド〜：FSP241eなどに収録されたのは別の曲だった…。

a1	b1	b2	b3
a2	a3	c1	c2



ISBN 0-252-06778-9

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~



17. Guarare ~original cover~



18. This is Mambo ~original 1957cover~

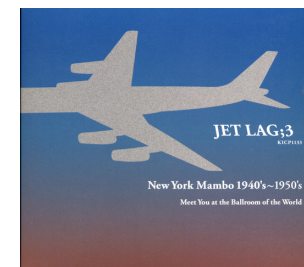
ティト・ロドリゲス Tito Rodriguez

1923年1月4日、サントウルセ生まれ。本名パブロ・ロドリゲス。バンドリーダー／歌手／作曲家。忘れじのinolvidable大スター歌手。ヴェルヴェット・ヴォイス、容姿端麗、洗練された身のこなし。



G&M 566

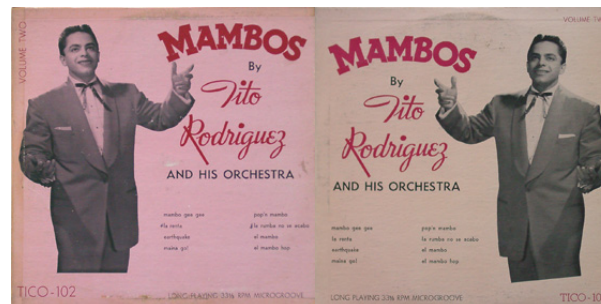
先にNYで音楽活動をしていた兄ジョニー・ロドリゲスを頼って1935年にNYに移住。ザビア・グガート、ノロ・モラーレス、ホセー・クルベーロらのオーケストラで経験を積み、1947or48年に独立した。ヴォーカルの他にはパーカッションとヴァイブをたしなむが、プレイヤーを見る目は確かで、チャーリー&エディ・パルミエーリ、マニー・オケンド、チェオ・フェリシアーノなど後に独立する名手だけでなく、ハロルド・ウェグブライト、アーティ・アセンサルなど生涯にわたり活動をともした秀才プレイヤーを起用、オーケストラは快適なパフォーマンスを発揮した。マンボ・ブームが沈静化しつつあった63年にボレーロ「イノルビダーブレ」が大ヒット。以降は、マンボとボレーロ～ラテン・ポップス2本立て活動した。ライブアルTPとは犬猿の仲となり、白血病を患い最後のコンサートのバックにはマチート楽団を指名したことも有名。1973年2月28日没。



KING KICP1133



LPM-1389 ~ 1958cover~



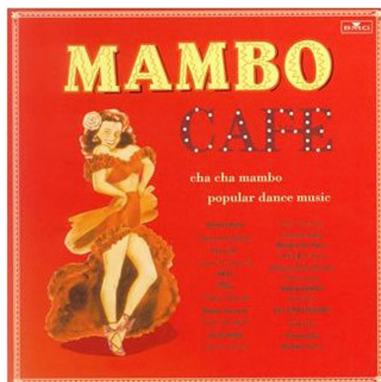
ティコの10”セカンド:あれれ?

Copyright: マンボラマTokyo



UAS-1009 japan issue

マンボラマTokyo presents 新宿ラテン地獄3 ~MAMBO before ChaChaCha~

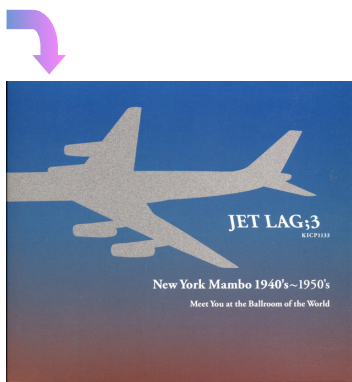


8. Mambo Bacan by Sophia Loren

1954年に歌って踊る

ウェスト・サイド・ストーリーは、摩天楼にてシャーク団PRとジェット団ITの勢力争いと悲恋を描いた有名な映画。シャーク&ジェット団共にボールルームでダンスに興じるシーンあり。音楽はレナード・バーンスタイン。1961年製作。

有名俳優のラテン・ダンスとしては、ブリジット・バルドーの濃厚なパチャンガも有名。



Quintet? In 1954



11. Mambo Sensacion

原盤fiesta FLP1204は入手が難しいが、“mambo sensacion”はキング KICP1133に収録。ホセー・クルベーロはTP, TR, サンティートスらを重用した。Tumbaoに貴重なライブを含むCD 3種あり。



16. Sway / Rosemary Clooney and Perez Prado

『タバスコの感触』というトホホなタイトルだが、ヒット「スウェイ〜キエン・セラ」や「メロンの気持ち」などを収録した有名盤。1959年録音。忙しかったのか、50年代のアルバムには手抜きっぽい製作もあるが、スター歌手ロージーとの共演、ハリウッド録音も作用してか、ポップ・アルバムとしての完成度が高い。再発も多い人気盤。



~~~~~intermission~~~~~

~~~~~intermission~~~~~